湊地区 PR のための WEB コンテンツ

A2201518 竹谷 汐里 A2201523 向中野 葉子 A2201525 矢吹 実珠

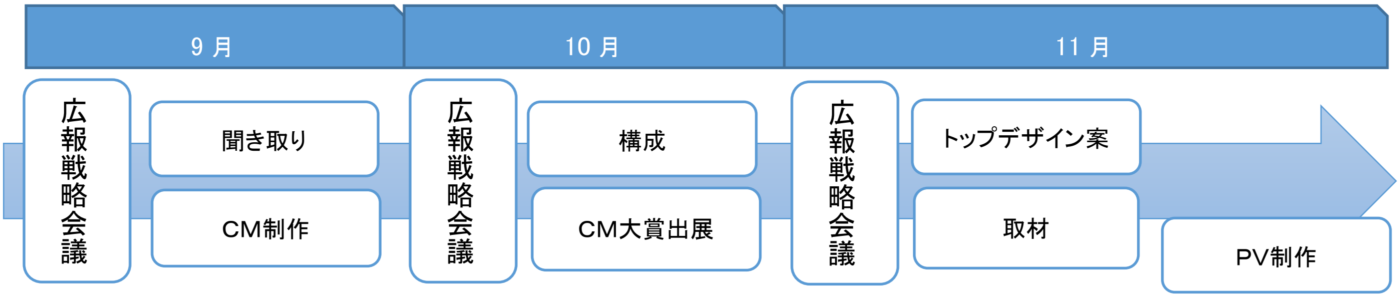
研究の背景

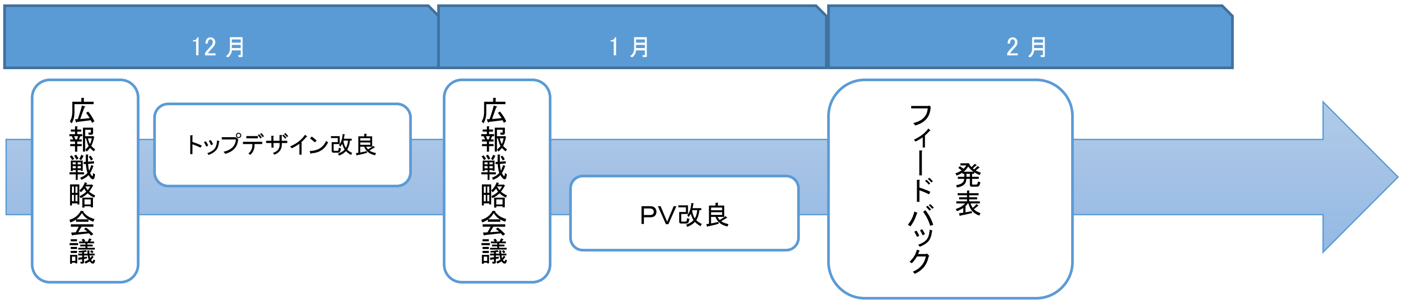
会津若松市にある湊地区は、猪苗代湖の西岸に接する自然豊かな農村地区であり、田畑が広がっている。一番の問題点としては、ほかの産業がなく働き世代は外部に流出しているため、高齢化が進んでいることである。このことが原因となって、人手不足が生じ、地域の活性化ができない状況となっている。そこで私たちは湊地区の魅力を知り、地域活性化に向け、湊地区で行われている地域おこしの活動の記録を発信したいと考えた。

研究の目的

広く湊地区の魅力を知ってもらうために、湊地区の活動やコンテンツを構成するためのウェブサイトを製作し、提案したい。ウェブサイトでは、湊地区の魅力を詳しく気軽に発信していくことを目的とし、WEB サイトとそのコンテンツを制作する。これらを通して湊地区の地域活性化に協力していくことを目的とする。

研究のプロセス





成果物（完成作品）

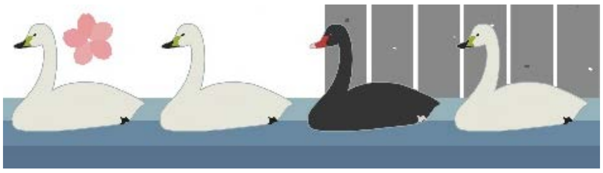
◆ WEB サイト

ホームページのトップページのデザインは、湊地区広報戦略会議での湊地区の方々の意見を参考にデザインした。要望にあった湊町らしさをアピールするアイテムを取り入れながら、私たち自身が感じた湊地区の人々の親しみやすさと温かさを感じてもらえるようなデザインにしたいと思い取り組んだ。ホームページのタイトルである「レッツみんなと☆湊町」は湊地区内で昨年の１２月１日から配布し始めた広報誌のサブタイトルを元にしている。タイトル部分のデザインは「会津で唯一会津磐梯山と猪苗代湖が一望できる湊町」という湊町最大のアピールポイントを生かしたものにした。スライドする写真は湊地区の方々でも変更できるようにしてある。

湊町らしさをアピールするアイテム

タイトルロゴ：磐梯山と猪苗代湖

フッター：白鳥、黒鳥



リンクボタン：農作物

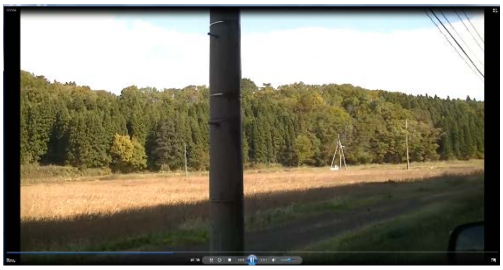
サイトマップ

◆ **プロモーションビデオ**

テーマ:「みんなのふるさと ～帰ってきっせぇ、湊町へ～」

湊広告戦略会議の中で湊町の方から、湊町の良さを広めたいというご意見を頂いた。問題点として挙げられたのは、良さはたくさんあるがその情報を伝達できる手段がないということだ。そこで湊町にある様々な魅力を、実際に訪れたことがない人でも目で見て感じてもらえるようなコンテンツを提案した。内容としては、一つのストーリーとなるように写真と映像を素材として組み合わせた。

▼プロモーションビデオの内容

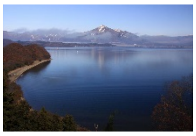


冒頭～

私達のふるさと(湊町)へ帰る途中の通り道の様子をPV の冒頭で表現。

～湊町の魅力詰め込みシーン

PV の序盤は湊町の魅力を集め、写真と説明を加えまとめた。湊町の自然、歴史、食など。



～回想シーン

自分が湊町で育った子供の頃を思い出しているシーンを表現。近所のおばちゃんの温かさ、雪の中から出てきた野菜を食べたなど思い出を振り返っている。

～ただいま、ふるさと、湊町

大人になった私たち。湊町が恋しくなり、ふるさとに帰ってきたシーン。

◆ **CM**

タイトル:「湊人の宝」

CM の作成は湊町の方から頂いた映像、音源を使用し行った。CM 作成をするにあたって、湊町の方からの条件がいくつかあり、提供した音源を BGM として使用すること、3 カットいれること、会津若松市に湊町があるということをわかるようにする事などで。CM の目的としては湊町から出て行った人たちを戻ってこさせることである。湊町は地域で子育ての町ということをアピールするような内容になっている。近所のおばさん達が子供の面倒を見てくれる、自然が周りにたくさんある等。また、地域の行事を通して近隣の人ともコミュニケーションをとれること。

考察

今回、地元を一度は離れた人達をターゲットに U ターン＋その他多くの方に湊町を訪れてほしいという依頼が会議の中で挙げられ、現地の方と話し合いを重ねていくことで、湊町の現状を知り、そこから広めていくにはどのような伝達手段があるかを考えた上で、私はプロモーションビデオというコンテンツを提案した。誰でも必ず持っている、「ふるさと」をテーマに一つのストーリーとなるように素材を決め、撮影し、組み合わせた。WEB サイトの中のコンテンツの一つにしたことにより、サイトにアクセスした際に拝見できる仕様となっている。WEB サイトでは湊町の詳細を知り、PV では動画で湊町の雰囲気を捉えやすくなるという利点から知名度を広げられるコンテンツになった。湊地区活性化委員会の方々と話し合いを繰り返し少しでも湊町をアピールできるコンテンツができたことは、地域活性化運動の中で大きな一歩になったと感じた。

この WEB サイトができたことで、湊町にあるさまざまなコンテンツを WEB 上に残すことができるようになった。私たちが会議の中で聞いた、高齢の方々や若者のために湊町の中で地域通貨を発行する、家庭のテレビで WEB ページを通して食品を注文するなどの湊町を活性化する今後のビジョンに役立っていくと考えられる。湊町のコンテンツの制作をしてみて、湊地区の方々から受け取ったたくさんの情報から私たちの中にある湊地区らしさを表現することが難しかったように感じた。